

様式第4号（第11項関係）

西脇市審議会等の会議の記録

審議会等の名称	第5回西脇市まち・ひと・しごと創生会議
開催日時	平成30年3月30日（金） 午後2時～午後3時30分
開催場所	西脇市生涯学習まちづくりセンター 3階ホール
出席委員の氏名又は人数	13名
欠席委員の氏名又は人数	2名
出席職員の仕事・氏名又は人数	5名
公開・非公開の別	公開
非公開の理由	
傍聴人の数	2人
議題又は協議事項	1 地方創生と総合戦略の概要 2 総合戦略の推進状況 3 地方創生関連交付金
会議の記録（概要）	
発言者	<p>○開会 （会長が選出されるまでの間、事務局が進行）</p> <p>○委員紹介・あいさつ</p> <p>○まち・ひと・しごと創生会議の運営について 会議資料に基づき、事務局から説明</p> <p>○会長及び副会長の選出（会長に加藤委員、副会長に棚倉委員を選出）</p> <p>（以後の進行を加藤会長に依頼）</p> <p>○地方創生と総合戦略の概要 会議資料に基づき、事務局から説明</p>
事務局	

副会長	西脇市は「ファッション都市構想」を掲げ、現在18名の若手デザイナー等呼び込んでいる。高齢化が進む中で、どのようにして若者を呼び込むかが播州織業界にとっての課題である。事務員の求人を行っても、なかなか若い人からの応募がない状況である。
委員	私は景気が良かった頃の西脇市を知らないのですが、最近のテレビ番組などで播州織が取り上げられているのを見ると、西脇市も変わろうとしているんだと感じる。
副会長	市長も、かつての商店街のにぎわいを取り戻そうとされている。
委員	播州織の新たな取組が成果を出しつつある。やはり従来と同じことをやっていたのではだめだと思う。
委員	総合戦略の計画期間が2019年度までとなっているが、2019年度以降の展開はどうなるのか。
事務局	国の総合戦略の計画期間が2019年度までとなっていることから、国に準じて計画期間を設定している。国においても、今後改定するかどうか検討されることとなるので、国の動向を見ながら市も改定について判断することとなる。
会長	地方創生の取組は、スタートしてから3年が経過した。成功している自治体は今後も国の支援が受けられるが、そうでない自治体は冷遇されるであろう。海外では、日本の少子高齢化の現状とそれに対する国の政策について非常に厳しい評価をされている。
事務局	○総合戦略の推進状況 会議資料に基づき、事務局から説明
委員	茜が丘複合施設みらいえで人形劇のイベントを開催したとき、たくさん子どもが参加してくれた。子どもを3人連れてくる親も多い。子育てしやすい環境づくりが進んでいると感じる。
委員	婚活イベントを主催している。マッチング率は参加者の

<p>会 長</p>	<p>4 割弱で、これまで 3 組のカップルが結婚されている。一方で、なかなか良い相手が見つからない参加者も多く、何とかしてあげられたらと思う。</p> <p>以前、ベビーカーに子どもを乗せてバスに乗った親が、ベビーカーを蹴飛ばされたというニュースを見て驚いた。そのことを海外の知人に話すと、「信じられない。私の国では、車内に子連れの親がいれば、誰もが席を譲る。」と言っていた。これは極端な例かもしれないが、西脇市もそのくらい安心して子どもを育てられる環境づくりが大切である。</p>
<p>委 員</p>	<p>数値目標の「新規雇用創出人数」とは何か。</p>
<p>事務局</p>	<p>企業誘致により新たに市内へ進出した企業や、起業・創業支援による新規事業所への就職者数を合計したものである。</p>
<p>委 員</p>	<p>西脇市の新たなロゴマークを各所でよく見かけるようになった。イチゴの特産化やファッション都市構想などの取組も進んでいて、良い傾向だと思う。</p> <p>若者のUターンを促進する上で大切なのは、子どもたちに対して西脇市内で働き、子育てをしながら暮らしていくイメージを伝えていくことではないかと思う。昨年、黒田庄中学校で講演をする機会があり、自分自身の働き方や都市部と比較した西脇市の良さについて話した。事後のアンケートでは、「考え方が変わった」「就職したら都市部へ行くものだと思っていた」という意見が多くあった。</p> <p>都市部での暮らしを否定する訳ではないが、家族を持って広い住まいが必要になると家賃が高くなり、待機児童の問題などで子育てが大変であると聞く。このような現実も、市内の子どもたちに伝えてあげられると良いと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>○地方創生関連交付金 会議資料に基づき、事務局から説明</p>
<p>委 員</p>	<p>県の事業は、対象が広くなればなるほど、つかみどころが難しくなっていく印象がある。</p>

<p>会 長</p> <p>事務局</p>	<p>地方創生の推進において、人口減少は悪しきものとして語られるが、実際に社会に与える影響は負の側面ばかりではないのかもしれない。また、今後は人口減少を前提としてまちづくりを進めていかなければならないとも感じる。</p> <p>人口減少が社会に与える影響については、経済学者の中でも意見が分かれるところである。ただし、避けられない問題であり、このまま黙って見過ごすわけにはいかないのは確かである。</p> <p>人口減少は、自治体間の勝ち負けがはっきりしている。西脇市においては、国や県と上手く調整できている方だと思う。今後も様々な取組を成功に導いてほしい。</p> <p>(事務連絡)</p> <p>次回会議の開催時期は、夏頃を予定している。</p> <p>また、本日の議事に関することで不明な点があれば、事務局まで遠慮なくお問い合わせいただきたい。</p> <p>(閉会)</p>
<p>問合せ先</p>	<p>西脇市都市経営部次世代創生課</p> <p>TEL 0795-22-3111 / FAX 0795-22-1014</p>